

『私が開発途上国サモアで感じたこと・考えたこと』

学校名・名前・担当教科： 六甲中学校高等学校・西本 忠夫（社会）
 実践教科： 地理
 指導時数： 10時間
 対象学年： 中学1年生 対象人数： 185人

＜教師海外研修を通して感じたこと＞

先進国で失われゆく絆や人間的暮らしが途上国にはある。それらは、援助による経済発展と矛盾する面がありそうだ。途上国自らの責任で判断されるべきである。しかし、グローバル化の進展により伝統的価値観は否応なく危機にさらされているし、人々も熟慮なしに発展を最重視しているかに見える。今価値があることは、長期的地球的視野に立って考えられる環境を支援することだ。そのような環境を日本でも大切にしていきたい。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

- ①日本のODAは、他の先進国と比較して改善すべき問題が多いと思っていた。
- ②途上国の学校教育の主な課題は、インフラの未整備や教員の不足による低い学力水準であり、主な原因は資金不足だと認識していた。
- ③近年やや勢いに欠けるとは言え、ソフトパワーを含む日本の影響力や国際的地位はアジア・太平洋地域では低くないと思っていた。

AFTER

- ①相手国の最終的な自立を目指し、日本ならではの細やかな配慮や誠実さを備えたODAもあると理解するようになった。
- ②社会で求められている能力とのミスマッチや文化的背景、雇用不足も深刻であり、日本の教育のノウハウの深さについても再認識させられた。
- ③官民揃って海外進出している中国の影響力の拡大ぶりと現地評価を知ることができた。日本は規模こそ異なるものの、サモアと同じ島嶼国であり、共通する課題を抱えている。真の国際化の必要性を痛感させられた。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践の目的/背景

①本校における中学地理の授業の取り扱い

1年生で週2時間、2年生で週2時間となっている。1年生では地理的思考や地図の見方、日本地誌を取り扱う。2年生では世界地誌を取り扱い、端折りながらも世界一周を目指す。

②現在の授業の課題

上記のカリキュラムで、世界を概観する力（系統地理的学力）と地域の特徴を考える力（地誌的学力）の形成に成果を上げている。一方で、「南北問題」や「日本と諸外国との関わり」といった現代社会における諸課題をテーマとして取り上げる機会はない。また、知識としてだけでなく地域の人々の暮らしが目に浮かぶよう十分授業で取り上げている地域はない。

③今回の授業実践の目的

そこで、南北問題のあらましを学んだ後、ケーススタディーとしてサモア地誌を取り上げる。詳しく学習するには小さな国であること、年間授業時数に制限があることから「途上国」や「援助」について、他地域と比較しながら考えさせることとした。

ふだん統計・地図など数値や図表で表される情報を理解し活用する機会を与えるよう配慮しているが、民具や具体的生活場面を切り取った写真を通じて人々の暮らしを考える経験を積ませたい。また、日本の援助についても具体的に伝えたい。これらを通じて南北問題について自ら考え、世界の他の地域の人々とのつながりを感じることができればと期待している。

④授業の位置づけ

第2部「さまざまな地域の調査」、3章「世界の国々を調べよう」の地誌学習において「南北問題」や「国際援助」「日本と諸外国の関わり」を発展的テーマとして学習する。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2時限目 南北問題の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・南北問題の実態と原因について概要を理解する。 ・途上国の置かれている状況・貧困について知る。 ・途上国への援助の必要性を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳 ・地理資料集
3・4時限目 サモア地誌	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアの自然・略史・政治・文化・経済と産業・社会について理解する。 ・諸統計に表れる途上国と先進国の相違点を読み取り、その意味を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳 ・教材プリント「統計」（資料Ⅰ） ・地理資料集

<p>5・6時限目 サモアの社会と暮らし</p>	<ul style="list-style-type: none"> クイズを通じて、サモアの暮らしとその背景を具体的に理解する。 「サモア島の歌」を聴き、歌詞の真偽について考えさせる。 カルチャーボックスから取り出したモノの用途と背景について話し合い、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> サモアの地図 教材プリント「クイズ」(資料Ⅱ)「サモア島の歌の歌詞」 サモア島の歌音声 カルチャーボックス
<p>7時限目 サモアの暮らしと課題</p>	<p>写真を見て、「何をどうしているのか」、「なぜか」を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> アピア市内 学校 農村の暮らし 	<ul style="list-style-type: none"> サモアの地図 教材プリント「写真」 映像(写真・DVD)
<p>8時限目 サモアへの日本の援助</p>	<p>写真を見て、「何をどうしているのか」、「なぜか」を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴミ処分場 自然保護区 津波被災地 援助事業を行う中国の企業 	<p>サモアの地図</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材プリント「写真」 映像資料(写真)
<p>9時限目 サモアと日本の価値観比較</p>	<ul style="list-style-type: none"> サモアと日本の価値観比較アンケートを実施し、サモアの生徒の回答と比較してそれぞれの背景を考えさせる。 青年海外協力隊員、JICA支所長の話 私からのメッセージ 	<ul style="list-style-type: none"> 教材プリント(アンケート用紙) 教材プリント(アンケート集計結果)
<p>10時限目 サモアに関するレポートの作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> サモアについて授業で教わったことや自分で調べたことを基に自分の感想や考えをまとめる。生徒の学習を評価する材料とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材プリント(レポート書式) 今までの教材

2. 授業の詳細

1・2時限目 「南北問題の基本」

■目標

- 南北問題という解決すべき課題の存在を知る。
- 南北問題の背景には先進国があること、途上国だけでは解決が難しいことを学ぶ。

■内容

- 南北問題とは何かを知る。
- 南北格差の理由を考える。



<ココがポイント>

理由や現象をできるだけ多様な観点から考えさせるようにする。

- 途上国の抱える貧困について学ぶ。



<ココがポイント>

中国の発展ぶりはよく知られている。途上国のイメージを中国ととらえている生徒も少なくない(中国を先進国と勘違いしている生徒もいる)。国により貧困の程度がさまざまであることと、1人あたりGDP、栄養不足人口の割合、識字率など説得力のあるデータを用いる。

④プランテーション農業を知る。



<ココがポイント>

開発が伝統的生活の維持や地域全体の均衡ある発展と結びつきにくい例として、また植民地支配に代わる先進国による経済的支配となりがちな例として取り上げる。

◎生徒の感想

「途上国であるサモアの現状を知り、先進国である日本に住む僕たちがどれだけ恵まれているのかよく分かった。」「人口が70億人になったニュースを見て何も思わなかったが、授業で習って、先進国がエネルギーを節約しないと、と思った」

◎所感

食糧増産・経済発展のペースを上回る人口増加について生徒が感想を記していた。10月31日に国連人口基金が世界人口70億人突破を発表したことで、社会的関心も高まった。途上国の人口増加は南北問題の解決を難しくするが、一人ひとりの生命の誕生を祝う気持ちを忘れずにいたい。

3・4時限目 「サモア地誌」

■目標

- ① 統計から地理的特徴を読み取り考える技能を磨く。
- ② 統計から、先進国と途上国の違いを読み取る。
- ③ 地図上の位置、諸統計から分かるサモアについて理解する。

■内容

- ① 教材プリント「統計」(資料I)を利用して、サモアの地図上の位置・地形・気候・略史・政治・文化・経済・産業・社会の特徴について地理的特徴を読み取り、背景について考察する。
- ② 読み取った内容を総合し、サモアの特徴をつかむ。その際、風土・文化をイメージする。



<ココがポイント>

他の途上国とサモアの相違点の存在を生徒に気づかせ、疑問を抱かせるようにする。のちに、途上国それぞれにふさわしい援助を考える上での伏線となる。

◎生徒の感想

「サモアは餓死する人もいないし輸入の問題以外ならけっこう安定しているので、ニュースでやっていた『人が幸せかどうかを計るブータンが1位だったやつ』が高いんじゃないかと思いました」「開発途上国は識字率が低いと思っていたが、サモアが高かったことに驚いた(日本とほぼ同じ)。世界は広くいろいろな目線で見ないと分からないことが多いと思った。」

◎所感

数値情報しかない統計からでも、生徒なりに実感を持って多面的な理解ができた。1つの国を詳しく取り扱うことで生徒の関心が強まっている。

5・6時限目 「サモアの社会と暮らし」

■目標

- ① サモアの人々の暮らしについて、身近な日本と比較して具体的に理解する。
- ② サモアの文化や風土、生活について知識だけでなく五感でイメージするよう努める。
- ③ サモアで生きることの魅力と苦勞を発見する。

■内容

- ① 教材プリント「クイズ」（資料Ⅱ）を利用して、サモアの暮らしや社会制度を学ぶ。
- ② 「カルチャーボックス」から取り出したモノの用途と背景について話し合い、発表させる。
- ③ サモア島の歌を聴き、歌のイメージと実際の違いを予想する。



<ココがポイント>

できるだけ生徒にとって身近なもの、また「生徒の日常」「日本社会」の常識、「途上国」のイメージを覆すようなものを選ぶ。ここまで客観的知識を軸に組み立ててきたが、ここでは海外研修を通じて得た体験談を生き生きと語ることに力を注ぎ、生徒の気持ちを高めたい。

◎生徒の感想

- ・「僕もサモアに行ってみたいと思いました。サモアにはどのような野生の果実が生えているのでしょうか。教えてください。」
- ・「サモアに行って、嬉しかったこと、感動したことは何ですか。」

◎所感

「カルチャーボックス」より「クイズ」がより生徒の関心を惹いた。生活体験に乏しいため、見たことのないモノで抽象的な特徴を学ぶよりも、身近にあるものの有無によって「途上国」「島国」「熱帯地域」の肉付けをする方が取り組み易かったのだろう。クイズでは抽象的なものでも取り扱えるが、モノは、学校生活や子供に密着したものを選ぶのが望ましいと考えられる。

7時限目 「サモアの暮らしと課題」

■目標

- ① 写真から地域の特徴や人々の暮らしのありさまを読み取る技能を身につける。
- ② 映像や音声を通じてサモアの暮らし・人々の喜怒哀楽に思いをはせる。

■内容

教材プリント「写真」（資料として以下に適宜掲載）を見て、何をどうしているのかなぜなのかを考えさせる。スクリーンにヒントや解説となる新たな写真を投影しながら授業を進める。

- ① アピヤ市内などサモアの街中の様子から生活ぶりを知る。
⇒マクドナルドの位置づけ・スーパーマーケットに並ぶ商品・乗合バスの混雑と譲り合い



マクドナルドの価格表



スーパーマーケット店内



乗合バス乗車風景

- ② 学校のあり方と子供や教育をめぐる諸課題について知る。
⇒制服・朝礼・国旗・詰め込み教育・体罰と子供の地位・教材・学習・進路・子供の笑顔



小学校の校庭



小学校の授業風景



小学校の職員室前（成績掲示）

- ③ 農村の伝統的自給自足の暮らしを知る。
 ⇒食事・住居（ファレ）・家畜や自然との共生・家父長・家族の関わり・楽しみ・歌声



農村のファレ



裕福な家庭の夕食



ご馳走にありつく犬



日曜日の過ごし方



<ココがポイント>

体験に基づいて説明する。サモアの人々の雰囲気や、海外研修で体験した自分の驚きや喜び、困ったことなどを語り、生徒に疑似体験の機会を提供する（8時限目も同様）。
 カルチャーボックスで取り上げたモノの使用場面を用意し、なるほどと思わせる。

◎生徒の感想

「このままでいくと、サモアという国はなるのですか。」

8時限目 「サモアへの日本の援助」

■目標

- ① 国際機関や ODA、NGO による途上国支援の概略と課題について知る。
- ② MIRAB 経済について理解する。
- ③ 望ましい途上国援助のあり方について考える。

■内容

教材プリント「写真」（掲載省略）を見て、何をどうしているのかなぜなのかを考えさせる。

- ① タファイガタ埋立地 ⇒サモアにおけるゴミ処理の重要性。日本の技術・工夫。持続可能性。
- ② バイリマ自然保護区 ⇒すぐ結果のでる援助と将来のサモア人に感謝してもらえらる援助。
- ③ アピア中心部の上海建工の旗標
 ⇒中国政府の有償資金協力で政府施設建設。必要性・存在感・影響力拡大・住民の評判。
- ④ 津波被害を受けたアレイパタ村
 ⇒被害と復旧。再発防止に必要な高額資金を地元は要望。
- ⑤ オセアニアの島嶼国家に見られる MIRAB 経済の課題特徴を知り、その課題について考える。

9時限目 「サモアと日本の価値観の比較」

■目標

- ① サモアと日本の価値観にはそれぞれ理由があり、社会形成の根幹となっていることに気づく。
- ② 価値観の多くは人類に普遍的で、社会のあり方は互いに学べるものであることに気づく。

■内容

- ① 価値観に関する「アンケート」を生徒に実施し、話し合いによって、回答を集約する。
- ② 同じアンケートに関するサモアの生徒の回答集計結果と比較して背景を考察する。
- ③ 青年海外協力隊員の現地での活動ぶりや想いを伝える。
- ④ JICA サモア支所長からのメッセージを伝える。
- ⑤ 私からのメッセージを伝える。



<ココがポイント>

慣れ親しんだ環境や物質的豊かさにとらわれることなく、サモア・日本両方の魅力と課題を感じさせたい。時間軸をずらしサモアの未来、日本の過去を比較すると共通点に気づき易い。持続可能性の観点も踏まえ、人間にとって何が大切かを真剣に考えることが実践授業の成果に繋がる。

10時限目 「サモアに関するレポートの作成」

■目標

- ① 自分の理解したサモアを総合的にまとめる。
- ② 途上国・日本社会の進むべき道・援助のあり方について自分なりの考えを持つ。
- ③ 自分の今後の生き方に関わる手掛かりをつかむ。

■内容

- ① サモア島の歌を再度聴き、日本から見たサモアに思いを馳せ、事実と区別して整理する。
- ② サモアについて授業で教わったことや自分で調べたことを発表形式にまとめる。
- ③ それらを基に自分の感想や考えをまとめる。

◎生徒の感想

「サモアについて勉強させて頂きましたが印象に残っています。詳しくは知らず、貧困でどうにもならない国だろうというのは単なる「思い込み」でした。確かに貧しい面もありますが、アフリカのところと比べるとまだ裕福かとも思いました。女性の社会的立場や、サモアにあるもの、識字率などいろいろなことを聴くとよい面も見えてきたりしました。ただ単に知名度や場所ではなく、統計や歴史的事実など複数の面を考えてその国を見つめることで本当のその国の美点、問題点が見えてくると考えさせられたよい機会となりました。」

3. 成果と課題

事前学習でのアドバイスやワークショップの体験などから、モノなどの資料を豊富に見せようと心掛けた。生徒は興味を抱き反応もよかった反面、感想を見ると講義による詳しい解説への期待や満足度が高い。知的情報伝達の重要性に気づかされた。目新しいアイデアやグッズもよいが、日常の授業を通じて発揮される教員の問題意識や知識習得のあり方が問われていると再認識した。また開発教育的発想でストーリーを組まずとも自ずと国際関係や社会構造、課題の重層性の理解を進めていった。適切な素材を与え、後は自分で考えさせる大切さを感じた。

体験に基づく話は、生徒の強い興味や集中力を生んだ。個人的立場や価値観を明らかにした上で(できれば広い視野や複数の視点から)、根拠に基づいて述べれば、主観的感想にも価値がある。生徒は耳にした話の中である程度真実に近いものを見分ける力があると頼もしく感じた。

私たちの行う授業にしる開発教育に関する講演やワークショップにしる、ある意図のもとに設計されている。それが人類の普遍的価値や正義にかなっているかは別として、主観的価値観が投影されており、押し付けの側面を持つ。生徒自身が後に自分で下す判断の方が正しいのではないかと自戒したい。主観的であることを明らかにして、体験談として語ることは、教師自身と生徒がそのことに自覚的であるための一つの試みになり得るのではないだろうか。

国際的取り組みを含めた問題解決について生徒の関心は強く、授業への主体的取り組みが今後とも期待される。ただ大学受験まで見据えた教科学習や課外活動に忙しく、自主的な調べ学習を継続する意志の強い生徒が多くない点が課題である。訪問した JICA サモア支所の相葉支所長から「『私にできることは何かを考えて貯金を始めました』ではなく『なぜ貧乏なのか』『なぜ水が不安定なのか』を学ぶ眼を養ってほしい。援助の仕方に正解はない。『何とかしてあげなければ』と短絡的に考えず、コミュニケーション能力と現場での対応力、考えるプロセスを大事にしてほしい」とのメッセージを頂いた。この言葉を生徒・教師とも大切にしていきたい。

参考資料

・参考文献

- 「データブック オブ・ザ・ワールド」二宮書店
 「社会科 中学生の地理 世界の中の日本」「図説地理資料 世界の諸地域 NOW」帝国書院
 「日本とのつながりで見えるアジア 7オセアニア」岩崎書店 石出法太
 「オセアニアを知る事典」平凡社
 「きみにもできる国際交流13 フィジー・トンガ・サモア」借成社 こどもクラブ
 「池上彰のニュースに登場する国ぐにのかけとひかり 4 南北アメリカ・南太平洋」
 池上彰 さ・え・ら書房

資料Ⅰ

統計プリントの内容 ※日本と比較

1. 自然 (1) 地勢 ①位置 ②地形 (2) 気候
2. 略史
3. 基本統計 ①人口 ②面積 ③人口密度 ④都市人口率 ⑤GNI (1人あたりも)
 ⑥人口増加率等 ⑦年齢別人口構成 ⑧産業別人口構成 ⑨土地利用
4. 政治
5. 文化 ①言語 ②民族 ③宗教
6. 経済産業 ①経済 ②農林水産業 ③世界貿易 ④対日貿易 ⑤貿易依存度 ⑥観光収入
7. 生活 ①通貨 ②自家用車 ③携帯電話契約者数 ④インターネット利用者数 ⑤識字率
 ⑥消費エネルギー・穀物・砂糖・紙類 (いずれも1人当たり)

資料Ⅱ

「サモアあるなしクイズ」

- 英語教育
 スーパーマーケット
 映画館 自家用車 刺青
 ホームレス 日本レストラン 鉄道 警察
 冬休み スラム ヒンズー教寺院 タクシー 離婚
 日本からの直航便 ラグビー バス 中華料理店 新聞
 相撲 パンの実 豆腐 ニート ココヤシ 大学
 殺人 コンビニエンスストア キリスト教会 刺身 日本大使館
 ゴミ処理場 JICA (独立行政法人国際協力機構) 児童虐待 電気
 日本人ボランティア ケンタッキーフライドチキン 街灯
 わさび 美しい海岸風景 マクドナルド ガス
 教科書配布 サモア語の授業 携帯電話
 児童労働 エアコン テレビ
 パソコン 刑務所 水道
 市役所

価値観に関するアンケートの作成・実施・集計は、教師海外研修旅行に同行された瀧口麻帆先生に全面的にお世話になった。この場を借りて感謝の意を表したい。

『サモアから学ぶエネルギー環境問題』

学校名・名前・担当教科： 兵庫県立北須磨高等学校・壺井 宏泰（理科）
 実践教科： 総合的な学習の時間
 指導時数： 4時間
 対象学年： 高校3年生 対象人数： 14人

＜教師海外研修を通して感じたこと＞

「人のしあわせって何だろう」と真剣に考えさせられた。サモアは社会インフラの整備が遅れてゴミ問題や国内に産業が育たないという大きな問題を多数抱えており、経済的には決して豊かではなく先進国からの援助を必要としている。しかし、サモア人は歌と踊りを愛し、家族や客人をととても大切にしている、底抜けに明るくしあわせな生活をしている。

ウポル島の発電設備は日本の約1/30であり、衣食住で様々な省エネルギーの工夫がされていて、3.11以降節電が求められている日本が学ぶべき点が多い。エネルギー使用量と幸福度は決して比例するものではない事を強く感じ、サモアから学ぶエネルギー環境問題というテーマで授業実践した。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

- ・開発途上国であるサモアにどのような援助ができるのかと考えていた。
- ・エネルギーと資源を大量に使用し、便利な生活をするのがしあわせだと感じていた。
- ・生物多様性の重要性をあまり認識していなかった。
- ・南の島は大自然に囲まれて、環境問題とは無縁だと思っていた。
- ・ODAの具体的な使われ方をあまり知らなかった。
- ・日本がサモアとどのような関わりを持っているかあまり知らなかった。

AFTER

- ・省エネ対策についてサモアから学ぶ点が多いと感じた。
- ・経済的に豊かでなくても、便利でなくともしあわせに暮らせる事を知った。
- ・生物多様性は絶対に守らなければならず、そのためにはエネルギー使用量削減と環境保護が大切だと感じた。
- ・島嶼国特有の環境問題が存在することがわかった。
- ・喜ばれる援助と迷惑がられる援助があることがわかった。
- ・青年海外協力隊をはじめ、多くの日本人の活躍があっはじめて日本が信頼されていることを実感した。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践の目的/背景

日本のエネルギー環境問題を考えるために他国の現状と比較することは有効な手段である。今までにアメリカ、イギリス、フランス、オーストラリア等を訪問してエネルギー環境問題について意見交換し、それを教材として教育実践してきた。しかし、最近の COP（気候変動枠組条約について協議する国連会議）等の国際会議で問題になっているのは先進国と開発途上国の主張の違いであり、お互いの現状を理解することが重要になってきている。そこで今回は、サモアにおけるエネルギー環境問題の現状を正しく認識し、日本を含めた先進国と比較することによって、理解を深めることを目的とした。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 サモアの概略を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアの地理的概要 ・サモアの文化（カバの儀式等） ・サモアの日常生活（ファレ、学校、通学等） ・2012 年から日付変更線の西側に入るというトピックスで興味を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真（パワーポイント） ・世界地図 ・サモア地図 ・教材プリント ・神戸新聞
2 時限目 サモアの衣食住	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアの伝統的な料理であるウム料理の作り方の写真を見せて、完全な地産地消であることを説明する。 ・サモアの伝統的住居であるファレの写真を見せて日本との違いを考える。 ・サモアの伝統衣装であるラバラバの写真を見せて、日本の衣装と比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真（パワーポイント） ・教材プリント ・ワークシート ・神戸新聞
3 時限目 サモアのゴミ問題と電力問題	<ul style="list-style-type: none"> ・街中に溢れるゴミ、ゴミ処分場の写真を見せてサモアのゴミ問題について考える。 ・発電所の写真や発電データを見せて日本と比較してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真（パワーポイント） ・ワークシート ・神戸新聞
4 時限目 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアに対する日本の国際協力の現状を写真で説明する。 ・キーワードを挙げて、それらを再生可能か再生不可能かに分類する。次にそれらがサモアと日本のどちらに関するものかに分類してその特徴を確認する。 ・「ママラの樹」の例から、生物多様性の重要性を考える。 ・サモア人の歌や踊りを見せ、パパラギの本やアンケート調査のデータも示して、しあわせとは何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真（パワーポイント） ・教材プリント ・ワークシート ・パパラギ ・神戸新聞

2. 授業の詳細

1 時限目 「サモアの概略を知る」

■目標

サモアの概略を説明して興味を持たせる

■内容

- ① サモアの位置を確認する。
2012年から日付変更線の西側に入るといふ神戸新聞理科の散歩道「日付変更線」2011年8月21日の記事を示して説明する。



<ココがポイント>

なぜ日付変更線を変更することになったか、その意味を考えることによって、サモアの歴史や現在抱えている問題を知る。



カバの儀式

- ② サモアの人口、面積等の基本データを示して神戸市と比較する。
③ サモアクイズで、サモアの日常生活の様子を理解する。
④ サモアの学校の様子を説明

Moata' a Primary School と Lefaga Secondary School の写真を見せて、日本との違いを考える。

- ・授業の様子
- ・生徒が教師の昼食を準備している様子
- ・教科書やノート

- ⑤ ホームステイの写真からサモア人の日常生活の様子を知る。

- ・シャワールーム
- ・トイレ
- ・食事風景
- ・教会

- ⑥ アピア周辺の写真から街の様子を知る

- ・市場
- ・バス
- ・マクドナルド



Moata' a Primary School



<ココがポイント>

マクドナルドのハンバーガーの価格を日本と比較して輸入品の物価について考える。

◎生徒の反応

初めはサモアという国を全く知らない生徒がほとんどだったが、かなり興味をもつようになった。生徒が教師の昼食を準備することに驚いていた。

◎生徒の感想

- ・生徒が先生の昼ごはんを作ることが信じられませんでした。
- ・異文化を知ることができて楽しかったです。
- ・世界で一番最後に夕日が沈む国から、最初に朝日が昇る国になると聞いて驚きました。
- ・サモア人はみんな仲良く優しくそうで平和で自由でうらやましなと思った。
- ・いろんな国に行ってたくさんの文化に触れてみたいと思いました。

2 時限目 「サモアの衣食住」

■目標

サモアの衣食住を知り、省エネルギーのヒントを考える

■内容

- ① サモアの伝統的な住居であるファレ（壁の無い家）を写真で紹介し、熱帯の暑さを防ぐために、どのような工夫がされているかを考える。



<ココがポイント>

日本の都市部で問題になっているヒートアイランド現象と比較することによって省エネルギーのための方策を検討する。

- ② サモアの伝統料理であるウム料理を写真で紹介し、どのような特徴があるかを考える。



<ココがポイント>

各自の昨夜の食事のメニューを書かせて、その原材料がどこから運ばれてきているかインターネット等を利用して調べる。フードマイレージと地産地消の意味を理解して省エネルギーのための方策を検討する。

- ③ サモアの伝統的な衣装であるラバラバを見せ、暑さ対策に有効な点を考える。
④ 節電マニュアルを配布して検討する。
⑤ 神戸新聞理科の散歩道「地産地消」2011年11月27日の記事を示して説明する。
⑥ エネルギー消費量削減のための具体案をまとめる。

◎生徒の反応

フードマイレージ、地産地消、ヒートアイランド現象などのキーワードを使ってサモアとの比較ができた。省エネについても具体的に考えるようになった。

◎生徒の感想

- ・サモアの生活は環境にいいし無駄がなくいいと思う。でも今から日本が全てをまねするのは無理だと思う。
- ・サモアは自然とうまく共存して暮らしていて、体験してみたいと思った。先進国はエネルギーを使いすぎていると感じた。
- ・日本は確かに便利で生活しやすい環境だが、環境問題に関してはサモアを見習うべき点がたくさんあると感じた。



ファレ



ウム料理



ラバラバ

3 時限目 「サモアのゴミ問題と電力問題」

■目標

サモアのゴミ問題と電力問題を理解する

■内容

- ① サモアの街中の写真を見せて、なぜゴミが多いのかを考えさせる。



<ココがポイント>

自給自足の生活様式から、先進国の大量生産大量消費型の生活様式に変化するときどのような問題が起こるかを理解する。



アピアのごみ

- ② サモアのゴミ処分場の写真を見せてどんな処分がされているかを知る。
- ③ 鹿児島県志布志市の例から、ゴミ削減のための方策を学ぶ。
- ④ ゴミはエネルギーや資源の無駄遣いの象徴であることを理解し、ゴミの削減、エネルギー消費量削減のための方策を具体的に考える。
- ⑤ 火力発電所の写真を見せて何かを考えてもらう。
- ⑥ 火力発電所の発電量のデータから、一人当たりの発電設備を日本と比較してみる。
- ⑦ 神戸新聞理科の散歩道「南の島のごみ問題」2011年11月13日の記事を示して説明する。



ウポル島のゴミ処分場



<ココがポイント>

各国の一人当たりの電気使用量のデータから、いかに先進国がエネルギーを大量に消費しているかを理解する。

◎生徒の反応

自然が豊かで、環境問題とは無縁と思っていたサモアも、ゴミ問題やエネルギー問題を抱えていることを知り、驚いたようだ。

◎生徒の感想

- ・サモアもゴミ問題がけっこう深刻だと知り驚きました。世界中の人々が協力してゴミを減らし、環境問題がひとつでも解決できたらいいなと思いました。
- ・近代化するにつれて、生活は便利になったけど、便利になるほど問題が増えてくるのは複雑だと感じた。
- ・先進国に近づこうとすればするほど環境問題が増えると思いました。サモアのような自然豊かな島はいつまでもそのままいてほしい。

4 時限目 「まとめ」

■目標

サモア授業についてまとめる。

■内容

- ① ファレ、ウム料理、高層ビル、原子力発電、火力発電、水力発電、太陽光発電等を持続可能なものと、持続不可能なものに分ける。
- ② 分けたものが、日本に関するものか、サモアに関するものかを分ける。



<ココがポイント>

持続可能な社会、持続可能な発展のためには何が必要かを検討する。

- ③ サモアの固有種であるママラの樹がエイズの治療薬として効果的であることのエピソードを通じて、生物多様性の重要性について考える。



<ココがポイント>

生物多様性の重要を認識して、そのために具体的にどうすべきかを考える。

- ④ 神戸新聞理科の散歩道「生物多様性」2011年11月20日の記事を示して説明する。
- ⑤ パパラギの本の一部を5分ぐらいで読んで、意見交換する。
- ⑥ サモアと日本の幸福感の違いを比較し、エネルギーや資源の使用量と幸福感は決して比例するものではないことを示し、今までとは別の価値観から普段の生活を見直してみる。
- ⑦ 持続可能な社会の実現のためにできる具体的な方策を考える。価値観の違いについて考え、別の視点から毎日の生活を振り返る。



<ココがポイント>

経済的に豊かで、便利な生活をするのが本当のしあわせなのかを考えるきっかけをつくる。

◎生徒の反応

価値観の違いや、異文化に触れてもっと世界を知りたいという好奇心をくすぐることができた。

◎生徒の感想

- ・サモアの授業を通して今までとは全く異なる生活や環境をいろいろと学ぶことができ、おもしろかったし興味深いものがあった。そのなかでエネルギー問題や環境問題についてもっと考えていかなあかんと思ったし、価値観の違いも理解できるようになりたい。
- ・サモアの国のイメージは“自然がきれい”という印象しかなかったが、産業やゴミやエネルギーのことなど日本と比較していくことで今の日本の現状や自分たちがこれからどうして行くべきかを考えることができた。



子供の労働



生物多様性の保護

◎所感

4時間という限られた時間での授業実践となり、かなり駆け足になってしまったが、サモアで経験して感じたことを生徒に伝えることはできたと思う。生徒自身が実際に現地に足を運んで直接経験することが一番良いことは言うまでもないが、高校生にとっては時間的にも経済的にも難しい。そのような状況で、一番身近な教師が実際に現地を訪問して見たこと、感じたことを生徒に伝えられるというのはすばらしいことだと感じた。授業後の感想を見ても、「サモアに行ってみたくなった」「もっと世界を知りたくなった」「今までとは価値観が変わった」などの意見が多かったこともそれを示している。

今後も機会のある度に今回の経験を生徒にフィードバックしていきたいと強く感じた。

3. 成果と課題

東日本大震災・福島原発事故以降、電力不足が懸念され、各方面に節電が求められている。以前から日本はエネルギー消費の削減に対して熱心に取り組んできたが、さらにエネルギー消費量を削減するには、サモアのようにエネルギー消費量が少ないにも関わらず幸せに暮らしている国に学ぶべき事は多い。また、震災以降、家族の絆をはじめとする様々な「絆」の重要性が再認識されてきているが、これらのことはサモアでは普段から最も重要視されていることだ。

今回の授業を通じて生徒達は、便利な生活を求めてエネルギー消費量が増加すれば幸せになれるという単純な図式ではなく、エネルギー消費量の増加は環境への負荷を大きくし、事故のリスクも増大させるという事実が気がついてくれたと思う。また、「しあわせとは何か」についても今までとは違った価値観から考えてくれるようになったと思う。

最近では「持続可能なエネルギー」、「持続可能な発展」という言葉を良く耳にするようになった。生徒達は今後の普段の生活の中で自分のしている行動が持続可能なものであるかどうかを検証し、持続不可能なものについては改善していってくれるようになるだろう。

エネルギー環境問題を他国と比較することは、視野を広げ、多様な尺度での判断が可能になるという面で有益なことである。ただ、その際に注意しなければならないのは、気候や産業構造や文化の違いなどを考慮する必要があり、単純には比較できないということだ。サモアとの比較においても、サモア人と同じ生活を日本人に求めることは不可能なことは言うまでもない。しかし、最近は大都市への一極集中や大量消費社会の反省から、都会での生活に見切りをつけて田舎で自給自足の生活をする人が増えてきているのも事実であり、このことは日本がサモアから学ぶ事が多いことを示している。

4時間の授業実践で、生徒全員がとても興味をもって授業に取り組んでくれたことが嬉しかった。生徒たちは授業を通して、今回取り上げたテーマがサモアだけでなく世界中に関連する問題であり、自分たちの日々の行動にも関係していることに気づき、今までとは全く違った観点から諸問題を考えることができるようになった。開発教育とは、単に開発途上国の現状を知り、異文化を理解し、日本との関わりを学習するだけではなく、その事を通して生徒たちが「真の豊かさとは何か?」「生きるとはどういうことか?」という人間にとって最も重要なテーマについて考える学習だと感じた。

これからの課題としては、アフリカ等の他の地域が抱える別の問題にも取り組んで、グローバル化が進む現在が抱える地球規模の様々な問題について正しく理解し解決策を考えることのできる生徒を育てていきたいと考えている。

参考資料

・参考文献

「エネルギー消費の削減に向けて—サモアとの比較—」 壺井 宏泰

Journal of Energy and Environmental Education Vol.6 No.1 DEC. 2011 P33-35

神戸新聞 理科の散歩道「日付変更線」2011年8月21日

神戸新聞 理科の散歩道「ごみ問題」2011年11月13日

神戸新聞 理科の散歩道「生物多様性」2011年11月20日

神戸新聞 理科の散歩道「地産地消」2011年11月27日

項目	日本	サモア
食料	自給自足の生活	自給自足の生活
衣類	洋服	伝統的な服装
住居	洋風建築	伝統的な住居

サモアの衣食住

サモアと日本の発電設備の比較

	日本	サモア (ウポロ島)
人口	10,000万人	15万人
発電設備	27,000万kw	1.5万kw
一人当たりの発電設備	2.7kw	0.1kw
サモアを1とすると	27	1

サモアと日本の発電設備の比較

しあわせって何？

- 先進国は大量生産、消費を基盤に便利な生活をしている。しかし、時間に追われ、家族と十分に過ごす時間もない。→しあわせ？
- サモアの田舎は自給自足の生活をしている。多少不便はあるが、みんな助けに明るい。家族が大好き。→しあわせ
- 日本はエネルギー消費量を減らすべき？

しあわせって何？

項目	内容
Q1	サモアの文化
Q2	サモアの生活
Q3	サモアの教育
Q4	サモアの環境
Q5	サモアのエネルギー
Q6	サモアの食文化
Q7	サモアの住文化
Q8	サモアの伝統
Q9	サモアの未来

まとめ



生徒は何をしているのでしょうか？

【第 4 部】

成果と課題

4-1 海外研修を終えて

教師海外研修を終えた参加者 7 人に対して行ったアンケートから、感想を抜粋した。海外研修と事前研修・事後研修を合わせてもわずか 15 日程度であったが、授業実践集やここに挙げた感想からもわかるように、各自大きな変化が見られたと言える。この教員自身の変化が児童・生徒に還元され、児童・生徒も変化し、成長へと繋がっていくことを期待したい。また、これから本研修に参加を検討する方々のために参加者からのアドバイスも記載した。ぜひ、参考にさせていただきたい。

(1) 教師海外研修に参加してよかったこと

【研修での経験について】

- ・ 現地の子供に対して授業ができたのがよかった。日本の学校では体験できないことがたくさんあった。
- ・ サモアという日本ではあまり聞くことのない国で活躍されている日本人がたくさんいることを知った。是非、子供たちに伝えたい。
- ・ 日本の子供たちに、サモアは遠い国ではなく、目には見えないが繋がりがあつたことを伝えたい。
- ・ 校種の違う方々と行動を共にし、意見交換し、違う視点からの考えを知り、大変刺激になった。普段、私たちが常識だと思っていることはサモアでは常識ではなく、異文化を実感できた。しかし、人を思いやる心は文化を超えることも実感できた。
- ・ 行かなくては分からないことはたくさんあり、今後も自分から出て行くことの必要性を認識できた。
- ・ 海外に行く機会があつても、教育現場を見たり体験することはなかなか出来ないのもとても興味深かつた。意識の高い先生方と 10 日間共に過ごし、意見を交わしあうことで本当に刺激を受けた。これが 1 番の収穫。
- ・ 一緒に行ったメンバーの人達とも、それぞれ教科は違いましたが、仲良く楽しく時間を共有することができ、これからもずっとこの絆を大切にしたいと思います。
- ・ 現地の学校で 2 回授業ができたこと、教育現場をじっくり視察できたこと、校長先生からサモアの教育を教えて頂いたこと、現地の生徒とふれあうことができたことは大変貴重な経験となりました。
- ・ 熱帯の自給自足生活のイメージが体感できた。
- ・ 日本の ODA の成功例とその理由を学べた。
- ・ 途上国・島国の抱える問題点を学べた（日本との共通点もあつた）。
- ・ サモアの文化に触れ、島嶼国の抱えるエネルギー環境問題の現実を理解することができた。また、サモアの自給自足・地産地消の生活を体験し、先進国のエネルギー消費量を減らすヒントを得ることができた。サモアで活動する JICA ボランティアの方々の献身的な活動の現場を知り、彼らの活躍が、日本人の印象を向上させているということが実感できた。

【訪問先や研修で出会った人について】

- ・今の日本の社会について、生活について自分自身も反省する点があることに気づいた。
- ・サバイイ島でのホームステイは、サモアの暮らしを知る上でとても興味深く心に残るものになった。ホストファミリーとの触れ合いは、言葉を超え、ここでの経験も忘れられない思い出となった。とくに2人の子供たちの案内がとても楽しかった。
- ・実際に協力隊として、海外で頑張る日本人に出会えた。
- ・ホームステイで、一晩だけだが話をしたり、一緒に過ごすことができた。

【参加者自身の変化について】

- ・日本の学校の良いところ、悪いところを今までとは違う見方で見る事が出来るようになった。
- ・開発途上の国に対し援助すると言うことはどういう事か、実際にサモアで感じたことを日本の生徒たちに伝えたい。持続可能な援助とはどういうことか、考えさせられた。
- ・帰国後は、日本で当たり前だと思っていたことに疑問を感じ、常にサモアを通して、日本の日常を見ていた自分がいた。それは、私達が忘れてきている大切なものをサモアで感じたからではないかと思う。
- ・研修を終えて「しあわせ」ってなんだろう・・・と改めて考えてみた。子供たちとも一緒に考えたい。

(2) 次年度以降の参加者へのアドバイス

① 出発まで

【事前研修について】

- ・行かなくては気づかないこともあるが、自分で現地での行動をイメージしておくこと。
- ・教師海外研修に参加する教師の間で連絡や事前の打合せを十分に行い、日本のJICAスタッフともできる限りコミュニケーションを図り、事前準備を行う。
- ・時間がないので準備を早めに。ある程度どんな国か学んでおいた方がいい。

【持ち物について】

- ・虫除けジェルタイプのものがかいいとか、スプレーがかいいとかいろいろ言われていたが、結局どれも同じ。虫除けのブレスレットだけでも大丈夫だった。
- ・胃薬は多めに持っていった方がいい。
- ・サモア人はシャンプーしか使わないらしく、スーパーにコンディショナーは売っていなかった。
- ・訪問校へのお土産など、メンバーで話し合い、分担して用意できたらいいと思う。
- ・万が一現地で体調が悪くなったときの薬（下痢止め、吐き気止め、胃腸薬、解熱剤など）を用意されていくとよいかと思われます。
- ・現地の生徒に聞きたいアンケートなども分担してそれぞれで印刷して持参されたらよいと思います。（かなり重たくなるので）途上国では学用品がなかなかそろっていません。
- ・体調不良時に備えてポカリスエット粉末とカロリーメートを。
- ・使用した物：冷えピタ、ポカリの粉は役に立った。

【帰国後の授業実践について】

- ・ 早めに計画を立てる。サモア出発前に計画ができていれば良いが、できていなくても研修中に研修参加者の先生とのお話でいろいろなアイデアをいただくことができた。先生方から話を聞くことも非常に勉強になる。
- ・ 準備が学期末処理の時期に当たり、大変苦しかった。サモアへの準備に全力投球できる時間が短かったので、余裕を持つための準備が必要。

【その他】

- ・ 現地ではスケジュールもハードだが、それ以外に心身ともに体力が必要なので、出発前の体調管理がとても大切だと感じた。
- ・ サモアでの授業についての準備を早めから・・・というのはなかなか難しいかもしれませんが、できるだけ早めに準備（せめて授業以外の準備物）をされることをお勧めします。

② 海外研修中

【研修中の記録について】

- ・ 写真をたくさん撮る。要らない物は後で消去。
- ・ 日記を書く。
- ・ 写真やビデオなどの記録についとらわれてしまいがちだけれど、自分の目で、耳で、感じる事が大切。（もちろん記録も大切ですが）
- ・ 毎日たくさんの気付きがありすぎるので、そのつど簡単な日記やメモを残しておくが良い。
- ・ 私達は、毎晩就寝前に必ず集まり、その日の「ふりかえり」をしました。その日あったことや感じたことはみんなで意見や感想を出し合い記録していくことをお勧めします。
- ・ 授業展開・報告書を予測して必要と思われる写真を想定してから、撮ったり聴き取りをする使いやすい。
- ・ 毎日のみんなでの振り返りは良かったです。それぞれ専門も関心も違うので、共有することでより豊かな体験ができます。なにせ滞在時間、見学時間には限りがあるので。
- ・ 情報交換を密にする。同じ場所に行っても視点は違うし感じることはそれぞれ違うので、他の人の意見はとても参考になる。

【体調管理について】

- ・ とにかく忙しかった。食べ物や水が違うので体調管理をしっかりする必要がある。
- ・ 胃腸薬持参と「カバ」の飲みすぎに注意。
- ・ しんどいときは無理せず休む。健康第一。
- ・ 少しでも余った時間はゆっくり休む（ベッドに横になる）。疲れをもちこすと次の日も大変です。
- ・ 健康状態を良好に保つことが最も大切だと思う。長距離の移動、慣れない食事等で体を壊すこともあるので注意しよう。

【サモアでの授業実践について】

- ・サモアでの授業実践が臨機応変にできるように子供が楽しめるゲームなどを考えておいた方がよい。
- ・英語が下手でも子供には何とかこちらの意志は伝わる。
- ・英語力が必要。しかし、彼らも英語が母語ではない。発問をし、児童生徒から反応が返ってきて、返答を聞き取れなかったり、意味が理解できなかったりする。発問をして考える授業よりも、活動中心の授業の展開がよいと思う。
- ・日本と違い、全てにおいて時間がきっちり決められて、物事が進められるということがほとんどないので、臨機応変に対応するべく、授業ネタは色々用意しておいたほうがよい。
- ・上から目線で、何かを教える！という気持ちではなく、子供たちから何かを学ぶ、一緒に何かを楽しむ、一緒に考えるという感じで授業に臨んでほしい。
- ・帰国後、日本の生徒にこんなことをさせたい…という気持ちよりも、いざ、授業をする時には目の前にいるサモアの生徒が自分の生徒。彼らのためになる授業はどんなだろう？と考えるべき。
- ・質問したいことは事前にメンバーの人達と話し合っ内容を考えられたらよいと思います。その際、現地の生徒が筆記用具を要するので、事前に生徒の持ち物を確認したほうがよいと思います。机がなかったり、鉛筆がなかったりすることがありますので。
- ・何かを貼るとき、貼ってはがせるテープはかなり役立ちました。黒板がちゃんとあるかも確認しておいたほうがよいと思います。
- ・「あれもこれもしたい」という気持ちはありますが、ポイントを1つに絞って授業計画を組み立てられることが大切です。特に小学校では「簡単で見えてわかる」授業を求められます。

【その他】

- ・事前にテーマを決めるには、ある程度サモアの国に対する知識も必要。そのうえでテーマを決定し、何を「見る」のか意識していくとよいと思う。しかし、実際行ってみると、予想を超える現状や異文化を感じ、戸惑うことも……。
- ・時間を有効に使う。多くの人と話をする。
- ・教材は、迷ったら、何か興味があったら必ず買って置く。
- ・できるだけ仲間内でたくさん話す。気付きをシェアして、さらに世界を広げる。
- ・ゆかたを着るより、その国の衣装(ラバラバやプレタシ)を着た方が喜んでくれたように思う。
- ・仲間で協力し合う。研究テーマは違って、みんなで意見を出し合い、話し合うことでもっといいものになる。
- ・帰国後の授業のための教材は見つけたら早め早めに購入することをお勧めします。売っている店がかぎられたりもしますので。

③ 海外研修後

【記録・記憶の整理について】

- ・速やかに資料の整理をするべき。日常に追われ、新学期が始まると、日々余裕がなくなってくる……。

- ・出来るだけ早いうちに報告書を記入して頭の中を整理する。結構すぐ感覚が鈍る。
- ・写真等の記録はできるだけはやくまとめるようにする。人の記憶は忘れるのが早い。

【その他】

- ・研修などで所属校の職員に事後報告をすることも、他の先生方にも開発教育を理解していただくチャンスかもしれない。

④ 授業実践について

【授業実践の内容について】

- ・生徒の人数や年齢、場所など事前につめてもらう。いろんなパターンを想定して準備する。

4-2 同行者の視点からの一言

秋山 玲美【JICA 兵庫 国際協力推進員】

今年度の研修国である南大洋州に位置するサモアについて知っていることは何かと聞かれると、多くの人が「サモアの歌」しか思いつかないのではないだろうか？それほどサモアは、私たち日本人にとって日常では関わりの少ない遠い島国なのだ。2回にわたる事前研修で、サモアの情報を得られるだけ得た。その上で「サモアの子供たちと日本の子供たちに何を伝えたいのか」、参加教員はそれぞれが普段から取り組んでいる「国際理解教育」と自分たちの「担当教科」、そして「兵庫県」という地域性を意識しながら独自の研修テーマを決定した。

海外研修では、そのテーマに基づき、習得した開発教育の手法を用いた授業展開をイメージしながら、サモアの子供たちや先生方、タクシーの運転手や市場の方々、ホームステイ先の家族や教会で出会った方々、青年海外協力隊や専門家の方々に積極的に質問をしていた。驚いたのは、早朝の散歩で火力発電所を発見し、そこで働く従業員にインタビューをした理科の先生がいらっしまったこと。次の日の朝、他の先生方も続いて訪れたそう。開発教育の定義である「知ること」「気づくこと」そして「行動する」ことをまさに実行していた。

帰国後の実践授業において懸念されている授業時間の確保であるが、参加教員は多忙の中、所属校の先生方へ研修報告を行い、理解と協力を得て実践していると実感している。事前研修の時点から研修テーマを決め、帰国後の実践授業を常に意識し、事後研修で写真や動画データ、現地ですらったアンケートのまとめ等を素早く処理し共有したため、実践授業の実現が非常にスムーズだった。生き生きと授業をする先生の授業を驚きと笑顔で受ける子供たちが印象的であった。

課題は、授業実践の継続だろう。今年度参加した教員たちに加え、過去に教師海外研修へ参加した教員たちで構成されているOB会がある。今年度の参加教員たちが実践授業内容や子供たちの感想を積極的に投稿している。刺激を受ける先生方も少なくはないだろう。結果、帰国後2か月にして第1回の勉強会が自主的に開かれた。JICAは、参加教員たちの開発教育への熱意の火を燃やし続けるようこのような場をフォローしていく。そして、グローバルな視点を持ち「自分に何ができるか」を実現できる子供たちが増えることを期待している。

JICA (Japan International Cooperation Agency) とは

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、開発途上地域等の経済及び社会の発展に寄与し、国際協力の推進に資することを目的として設立された独立行政法人です。政府開発援助（ODA）として、技術協力（技術研修員の受入れ、専門家の派遣、機材の供与、開発調査など）、有償資金協力、無償資金協力、青年海外協力隊やシニア海外ボランティアなどの派遣、災害緊急援助などを実施しています。

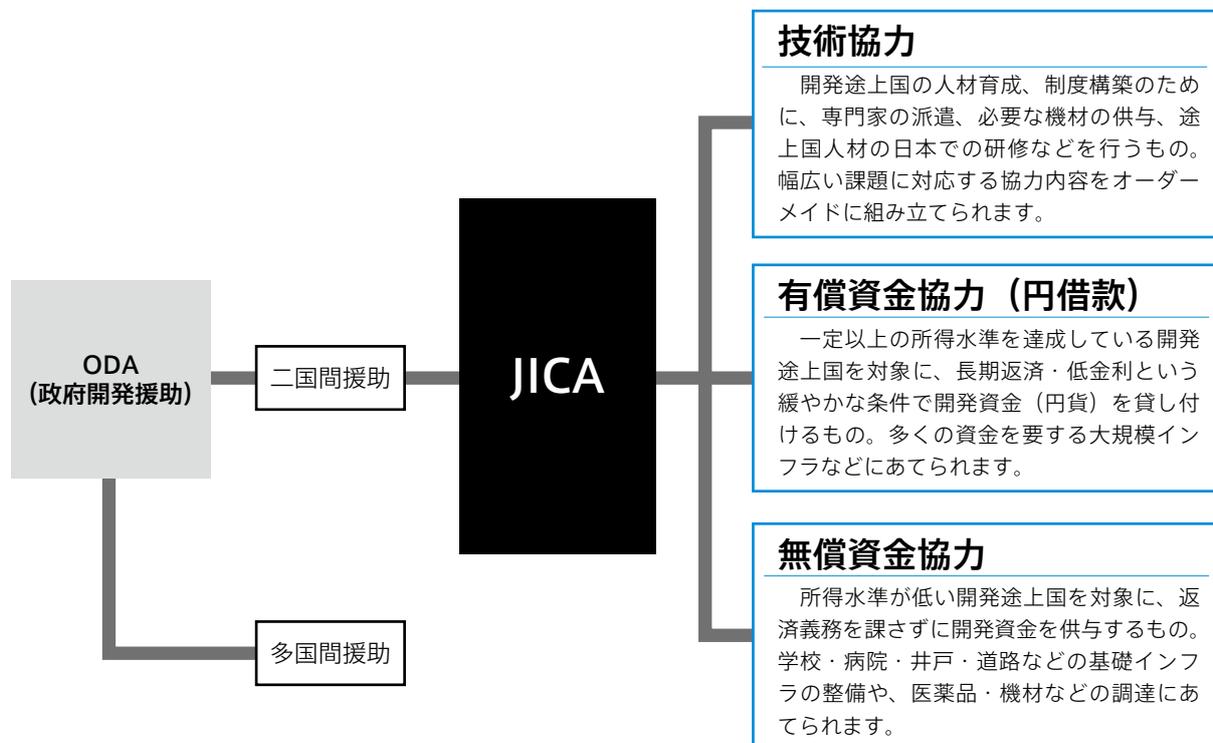
ODA と JICA

日本は、1954年にコロンボプラン（*1）に加盟して以来、「国際社会の平和と発展に貢献し、これを通じて我が国の安全と繁栄の確保に資すること（*2）」を目的に、政府開発援助（ODA:Official Development Assistance）として、開発途上国に資金的・技術的な協力を実施してきました。

JICAはODAのうち、国際機関への資金の拠出を除く、二国間援助の3つの手法である。「技術協力」・「有償資金協力」・「無償資金協力」を一元的に担っています。世界最大規模の二国間援助機関であるJICAは、約100か所にのぼる海外拠点を窓口として、世界150以上の国と地域で事業を展開しています。

（*1）コロンボプラン：南アジア・東南アジア・太平洋地域諸国の開発援助のために1950年に設立された国際機関。スリランカのコロンボに事務局がある。

（*2）2003年8月改定、政府開発援助（ODA）大綱から。



「JICA PROFILE」から引用

JICA 兵庫の開発教育支援事業紹介

JICA 兵庫では、小・中・高校の児童・生徒および教職員を対象に様々なプログラムを用意しています。ぜひ、ご活用ください。詳しく知りたい方は、パンフレット「開発教育支援の手引き」をご請求ください。

なお、「開発教育支援の手引き」は、JICA 兵庫ホームページからダウンロードできます。
<http://www.jica.go.jp/hyogo/enterprise/kaihatsu/tebiki/index.html>

世界を知れば、「生きる力」に。JICA 兵庫が「考える場」を提供します。
 現場経験者だから響くコトバ！魅力ある授業づくりに JICA が協力します。

● JICA 兵庫訪問プログラム・JICA 国際協力出前講座

JICA 兵庫 HP : <http://www.jica.go.jp/hyogo/enterprise/kaihatsu/index.html>

開発途上国での滞在経験を持つ講師による臨場感のある授業はいかがですか？
 学校での授業はもちろんのこと、校外学習（社会見学）、教員研修やスタディツアーの事前・事後学習会などに活用できます。一方通行の講義ではなく、参加型のワークショップを提供します。開催場所・内容・実施形態などは、ご相談ください。

■実施時期：通年

■実施場所：出前講座 = 学校や公民館など / JICA 兵庫訪問 = JICA 兵庫

■派遣講師：JICA ボランティア（青年海外協力隊・シニア海外ボランティア・日系社会ボランティア）OB/OG、JICA 専門家経験者、JICA 職員など



世界が教室にやってきた！世界の人々と触れ合う楽しさを体験。

● JICA 海外技術研修員との交流

JICA 兵庫 HP :

<http://www.jica.go.jp/hyogo/enterprise/kaihatsu/demae/kouryu.html>

開発途上国から JICA が招へいた技術研修員を学校の教室に呼んでみませんか？
 研修員は、母国で行政官・技術者・研究者として勤務しており、各専門分野について兵庫で研修しています。JICA 兵庫は、JICA 国際協力出前講座の一環として、みなさんが国際協力を考えるきっかけになるよう交流の場を提供しています。

開催場所・内容・実施形態などは、ご相談ください。

■実施時期：通年

（*本プログラムの対象コースと日程は、ホームページに掲載します。）

■実施場所：学校や公民館など

■派遣講師：JICA 海外技術研修員（当日は、研修監理員が同行します。）



価値観を変える 10 日間。現場を見て、自分の言葉で世界を伝えてみませんか？

● 教師海外研修

JICA 兵庫 HP :

<http://www.jica.go.jp/hyogo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>

実際に海外の現場に足を運ぶことで、文献や映像では分からない開発途上国の現状を目の当たりにすることができます。現地の学校訪問、JICA 事業の現場視察や現地の人の生活状況を調査し、帰国後の授業実践に向けた材料収集を行います。

■時 期：7 月下旬から 8 月上旬に海外研修

（応募要項など詳細情報は、ホームページにてご確認ください。）

■対 象：開発教育（国際理解教育）に関心がある教員及び指導主事

■派遣人数：8 人程度



JICA 兵庫の開発教育支援事業紹介

● JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

JICA 兵庫 HP : <http://www.jica.go.jp/hyogo/enterprise/kaihatsu/essay/index.html>

国際社会の中で自分ができることは何かを考える機会を提供することを目的に実施しています。開発途上国の状況、ボランティア活動の経験、外国の友人からの学びなどを、自由にエッセイにしてみませんか？応募作品数は毎年増加傾向にあり、中高生の国際協力への興味・関心の高さを感じます。夏休みの課題として参加してみませんか？

● 開発教育指導者セミナー

JICA 兵庫 HP :

<http://www.jica.go.jp/hyogo/enterprise/kaihatsu/shidousha/index.html>

「多文化共生のための開発教育・国際理解教育セミナー」

地球上で起こる様々な問題や異文化を理解するための面白い教材の紹介やワークショップの実践方法を学ぶ2日間の参加型セミナーです。毎年80人を超す参加があり、兵庫県内で開発教育を実践する教員間の情報交換の場としても役立っています。

■時 期：8月上旬

■対 象：開発教育を実践中または興味のある教員、大学生、地方自治体職員や団体職員など



● JICA 兵庫市民参加プログラム

JICA 兵庫 HP (イベント一覧) : <http://www.jica.go.jp/hyogo/event/index.html>

まずは「見る、聞く、食べる、遊ぶ」ことから世界を感じてみませんか？

国際協力の経験、外国への渡航経験などは全く関係ありません。少しでも開発途上国や日本の国際協力に興味をお持ちの方は、お気軽にご参加ください。

■見ることから始める国際協力「JICA 兵庫映画鑑賞会」

■聞くことから始める国際協力「JICA セミナー」

■食べることから始める国際協力「JICA 兵庫エスニック料理」



● JICA プラザ兵庫 (広報展示室・資料室・食堂・ロビー)

JICA 兵庫 HP : <http://www.jica.go.jp/hyogo/office/plaza.html>

多くの市民の皆さんが訪れ、国際協力への興味や共感を育み、国際協力に参加する人々が増えること、また、地域で国際協力に関わる市民団体の情報発信や交流・研修の場となることを目指して開設しています。みなさん、お気軽にお立ち寄りください。

広報展示室には、事業紹介から始まり、そこから見える世界の文化や諸問題をテーマにパネルや映像を展示しています。その他にも国際協力にちなんだ様々な「見て、触って、体験できる」展示がいっぱいです。展示内容は定期的に更新しますので、JICA 兵庫ホームページをご確認ください。

資料室では、国際協力に関する書籍・映像資料のほか、授業で活用できる開発教育教材などが閲覧できます。市民団体の打合せスペースとしても活用できます。食堂は、どなたでもご利用できます。月替りエスニック料理が好評です。ロビーは、NGO/NPO などの活動紹介パネル展の会場として活用できます。





独立行政法人国際協力機構 兵庫国際センター（JICA 兵庫）

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 5 番 2 号

TEL : (078) 261-0341 (代表) FAX : (078) 261-0342

<http://www.jica.go.jp/hyogo/index.html>